学校教育目標「豊かな人間性とたくましく生き抜く力を身につける子どもの育成」

しきなん　shikinan

敷島南小学校
学校便り　NO,８
令和５年７月
学校長　五味　正年

3年生　自転車教室に行ってきました

先日，警察の OB で敷島南小学校のスクール･サポーターをしてくださっている方が見え，交通安全についてお話をしてくれました。年度がかわると，子どもたちも学年が一つずつ上がり，行動範囲も広がってくると，例年の傾向を教えていただきました。その中で，自転車に乗れるようになると，交通ルールもよく分からないまま，嬉しくてスピードを出したり，遠出をしたり，左右を確認せず飛び出したりすることがあり，事故が起きやすくなるとのことでした。

さて，本校では３年生から，自転車に乗れる範囲が学区内に広がる（保護者の目の届かない所まで広がる）ことから，この時期，正しい自転車の乗り方について身に付けることが重要だと考えています。そこで，毎年，山梨県の総合交通センターを利用し，自転車教室を実施しています。そこでは，学習ルームと体験コースが設定されていて，小学生を対象とした授業をしてくれます。

学習ルームでは，映像を中心に，交通ルールや危険な場合など学習することができます。体験コースでは，実際の自転車を使い，一般道に見立てたコースを走りました。そこには，前もってお願いした３～４人の甲斐市交通指導員さんが交差点や危険箇所に立ち，直接指導をしてくださいました。走り出すとき，道を曲がるとき，止まるときなど，具体的な指示を出してくれるので，スムーズに練習することができました。自動車も，バイクもなく，安全に練習ができるので，子どもたちも，焦らず一生懸命取り組むことができました。一人一人を見てくださり，子どもたちにとってはとても良い体験になったと思います。また，このとき自転車を乗るときの合い言葉「ブタはしゃべる」も教えてくれました。これは，安全に自転車を乗るための事前に点検する項目です。詳しくは，以下を参考にしてください。

① ブ・・・「ブレーキ」は効くか
② タ・・・「タイヤ」はパンクや空気抜けはないか
③ は・・・「反射材」はついているか
④ しゃ・・・「車体」の確認
⑤ べる・・・「ベル」はちゃんと鳴るか

本校では，学年ごとに自転車に乗ることができる範囲の目安を決めています。１，２年生は自分の家のまわり，３，４年生は学区内，５，６年生は旧敷島町内となっています。ご家庭でも，交通ルールや自転車の乗ることのできる範囲を守って，自転車に乗るようご指導ください。また，今年度の４月より，ヘルメットを被ることは努力義務となっています。子どもの安全を第一に考え，なるべくヘルメット被るようご指導お願いします。

子どもに大切にしてもらった記憶を残すことが大人の仕事

　先日，私は，中北教育事務所主催の講演会に参加しました。その時，講演してくださったのが，山梨県の教育長をされていた斉木邦彦さんでした。そういえばと，以前，私が田富小学校に勤務していたとき，当時の校長先生からお聞きした話を思い出しました。その話とは，斉木さんが「校長先生のお仕事」という演題で講話をしてくださった時のことだそうです。それは，漫画家，益田ミリさんのエッセイから『「大切にしてもらった成分」が，大人になった私には詰まっているんだ。だから，きっと私は大丈夫と思える。』というお話です。

◆エピソードとして紹介されていた「大切にしてもらった成分」

・近所のおばさんに「絵が上手やなあ。おばちゃん，そんなに上手に描かれへんわ。」と褒められたこと。
・会うと必ず，近所のおじさんに「べっぴんさん！」と声をかけられたこと。
・クラスでくじ引きをした時，ぐずぐずしていて出遅れて一番ビリになった。悲しかったけど，
　先生が，「一番後ろに並んで偉かったね。」と言ってくれたから，みるみる元気になったこと。
・親戚の家で，熱を出した時，冷たいタオルをおでこにのせてくれたおばさんの手の匂い。
・自転車で転んで泣いていた時に助けてくれた，お向かいのお姉さんの優しい声。
　など父母だけではなく，幼い私を気にかけてくれた外の世界の人々の記憶。

斉木さんは,「大切にしてもらったという記憶を，子どもにたくさん残すこと。」，それが校長先生方の仕事だと思うと話されたそうです。これは校長だけではなく全ての教職員，保護者にも当てはまることだと思います。どんなに心配でも，受け持った子や我が子にずっと付き添い守っていくことはできません。しかし，私たち大人から「大切にされた記憶」が，将来，困難に直面した時，子どもたちの支えとなるのです。一緒にいられる時間を大切にして，たくさんの「大切にしてもらった記憶」を子どもたちに与えていきたいものです。

素敵な子どもたち　心温まる話

　６月２６日（月）に草取りボランティアのｃ　　保護者の方より，とても良い話を聞くことができました。

　つい最近のことになるのですが，目の不自由なおばあちゃんが，ゴミ出しをしようとしていたときのことだそうです。本校の高学年の女の子２人が，「何か困ことがあったら，お手伝いします。」と言って，ゴミ出しを手伝ったそうです。

　その人は，保護者の方に「とてもありがたく，嬉しかった。」ことを伝えたそうです。保護者の方も，その方が大変喜んでいる姿を見て，とても嬉しかったそうです。

　私は，保護者の方より，とても心の温まる話を伺い，本当に嬉しく思いました。本校の子どもたちが，学校内だけではなく，地域でもこのような行動ができることのすばらしさに感動しました。通りすがりでも，困っている人がいることを判断し，<u>手をかす勇気</u>をもって手伝いができたことは，とても素敵なことだと思います。